

指導マニュアル:令和4年度 一般選抜 過去問(国際関係コース)

～「道義的な目覚め」を促す、人類普遍の問いに答える～

1. 指導の核心(コンセプト)

令和4年度の課題文(オバマ大統領の広島演説)は、島根県立大学が求める**「力・利益・価値」の三体系の対立が、最も極端な形で表れた「核兵器」を扱っています。指導のゴールは、科学技術(力)の進歩に対し、人類の倫理性(価値)がいかに追いついていないかを認識させ、「破壊能力から創造能力への定義の転換」**を論理的に語らせることにあります。

2. 設問別・指導の急所

【問1】訪問の多層的な目的(200字)

- 指導のポイント: 単なる「観光」や「儀礼」ではないことを、本文の言葉を繋いで説明させます。
- 必須の論理構成:
 1. 追悼: 核兵器という「恐ろしい力」によって奪われた無実の命を悼む。
 2. 自省: 私たちが何者であるか、暴力の正当化という過ちを犯していないか問う。
 3. 責任: 苦しみの再発を防ぐために「やり方」を変える共同責任の自覚。
- 指導コメント: 「『それほど遠くない過去～』のフレーズを必ず使い、核兵器が現在進行形の脅威であることを意識させましょう。」

【問2】具体的な制度知識の確認(200字)

- 指導のポイント: 「任意の機構や条約」を一つ選び、その機能(制限・縮小・廃絶)を正確に書かせます。
- 推奨素材:
 - NPT(核不拡散条約): 現実的な管理体制。
 - TPNW(核兵器禁止条約): 非人道性に基づく理想的な廃絶。
- 指導のアドバイス: 「『略述しなさい』なので、設立年、目的、主要なルールを簡潔にまとめるトレーニングをさせましょう。」

【問3】思考様式のコペルニクスの転回(600字)

- 指導のポイント: 「従来の考え方」と「新しい考え方」を鮮やかに対比させることが合格の鍵です。
- 必須の対比:
 - 従来: 支配、征服、他者の抑圧、暴力の正当化、破壊能力による定義。
 - 変容後: 創造、相互依存の協力転換、道義的想像力、何を築くかによる定義。
- 指導のアドバイス: 「戦争をなくしたい」という願望ではなく、「国家や人間を定義する『価値の基盤』を、破壊から創造へシフトさせる」という学術的な論理へ引き上げてください。

3. 合否を分ける添削チェックリスト

- [] 用語の正確な抽出: 「道義的な目覚め」「共同責任」「現状への甘んじ」などのキーワードを使っているか。
- [] 対比の明確化: 問3において、旧来の戦争観がいかに現代の「力」に適合しなくなったかを論じているか。

- [] **体験の有効活用**: 広島への修学旅行や平和学習、あるいは「他者の痛みへの想像力」を発揮した具体的な場면을接続できているか。
- [] **「自画像」の更新**: 自分たちの平和への願いが「現状への甘んじ(自分たちが平和なら良い)」になっていないか、自己批判的に捉え直せているか。

4. 指導用ワーク: 生徒への問いかけ

1. 「オバマ氏はなぜ『宗教』や『国家の物語』が殺人の許可証になると言ったのだろうか？ 現代の紛争に当てはまる例はある？」
2. 「『破壊能力』で国を定義するとはどういうことか。逆に『何を築くか』で定義するとは具体的にどういうことだと思う？」
3. 「被爆者の声が聞けなくなる未来において、君たちの『道義的想像力』はどうやって維持できる？」

講師への最終アドバイス: この年度は、高坂正堯氏が『国際政治』の結びで説く「人間の可能性」とオバマ氏の演説が共鳴しています。Canvas にある解答例 3(高度: 価値の体系)のように、「破壊という力の体系」を「創造という価値の体系」によって制御するという論理を提示できれば、島根県立大学の採点官から絶大な評価を得られます。